

農業農村支援センター

令和5年度

農業農村支援センター

1 概況

管内の農業は、標高 760m から 1,200m に至る地域で営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、セルリー、ブロッコリー、キャベツ等が産地化され、なかでもセルリーは、全国トップの生産量を有している。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県全体の 3 割弱の生産額を占めている。

また、近年は醸造用ぶどうの栽培が増加しており、令和 5 年 3 月には当地区がワイン特区として認定された。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

一方、諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

(1) 耕地面積

耕地面積は 5,888ha で、田は 3,273ha、畑 2,605ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 120a で県平均 117a を上回っている。

市町村名	耕地面積 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	農家一戸当たり 耕地面積 (a)
岡谷市	211	74	137	47
諏訪市	602	394	208	71
茅野市	2,330	1,340	984	117
下諏訪町	45	21	24	36
富士見町	1,570	891	680	170
原村	1,130	553	572	200
合計	5,888	3,273	2,605	120
対前年比	99.4	99.5	99.1	—
県	104,800	51,500	53,300	117
対前年比 (%)	99.6	99.6	99.8	—

注) 資料: 農林水産省耕地面積調査 (令和 5 年 2 月 28 日現在)

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2020 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業従事者数、基幹的農業従事者等

管内の農家戸数は 4,905 戸で前回センサスの 84.1%であり、販売農家戸数は 2,174 戸で同 78.8%、自給的農家戸数は 2,831 戸で同 92.2%となっている。

農業従事者数は 5,286 人で前回センサスの 70.0%、基幹的農業従事者は 2,790 人で、同じく前回センサスの 70.0%であり、いずれも全県値より減少幅が大きくなっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数			農 業 従事者数	基幹的 農 業 従事者
	総農家数	販売農家	自給的 農 家		
岡谷市	448 (512)	65 (79)	383 (433)	158 (215)	96 (116)
諏訪市	846 (982)	319 (403)	527 (579)	797 (1,054)	412 (553)
茅野市	1,999 (2,452)	925 (1,158)	1,174 (1,294)	2,099 (3,196)	1,050 (1,599)
下諏訪町	124 (147)	15 (21)	109 (126)	46 (56)	25 (33)
富士見町	922 (1,070)	450 (598)	472 (472)	1,127 (1,593)	557 (819)
原 村	566 (667)	400 (500)	166 (167)	1,059 (1,452)	650 (864)
合 計	4,905 (5,830)	2,174 (2,759)	2,831 (3,071)	5,286 (7,566)	2,790 (3,984)
対前回比	84.1	78.8	92.2	70.0	70.0
県	89,786 (104,759)	40,510 (51,777)	49,276 (52,982)	102,706 (137,207)	55,516 (73,467)
対前回比	85.7	78.2	93.0	74.9	75.6

注) 資料：2020年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家
- ③農業従事者数：15 歳以上の世帯員のうち、調査期日前 1 年間に自営農業に従事した者
- ④基幹的農業従事者：15 歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している者 +
- ⑤対前回比：2015 年農業センサスとの比較

(3) 令和4年の気象と農業生産状況

平均気温は4月～5月、6月中旬～7月上旬にかけて平年を上回り、降水量は7月中旬～9月上旬にかけて平年を上回った。日照時間、降雪量はともに平年並みだった。

春先の凍霜害はなかったが、6月の豪雨により一部ほ場への土砂流入や用水路の破損、2月中旬の降雪により一部でパイプハウスの損壊が生じた。

水稻は、出穂期が平年よりやや早く、穂数は平年を下回ったものの、稈長、穂長は平年以上となり、南信地域の作況指数は98で、1等米比率は98%となった。

野菜類は、セルリーで疫病による被害が散見され、ブロッコリーでは、降雨の影響から病害により一部ほ場で減収となった。

花き類では、梅雨明け後の高温により生育の前進や葉焼けの発生が見られた。

(4) 農業等産出額（R3）

農畜産物の産出額は、前年対比99.3%の144億円であり、米は同95.3%の27億円、野菜は同98.5%の67億円、花きは同105.5%の38億円となっている。野菜と花きを合わせると、産出額全体の約7割を占める。

水産業の産出額は、前年対比75%の6億円となっている。

(単位：ha、千万円、%)

種 類	作付面積	農業等産出額		
			構成比	
農畜産物	米	1,993	267	17.8
	麦・大豆・雑穀	426	3	0.2
	果樹	88	20	1.3
	野菜	1,453	670	44.8
	花き	88	380	25.4
	きのこ	—	10	0.7
	畜産	—	90	6.0
	養蚕・その他	—	0	0.0
	計	4,048	1,440	96.2
水産業	—	57	3.8	
合計	—	1,497	100.0	

注) 産出額は、県農業産出額に基づく地域振興局推計値

(5) 新規就農者の確保育成状況

県、市町村、JA等で構成する「諏訪地区就農支援連絡会」が中心になり、就農相談、就農計画の作成支援、就農後のフォローアップを実施している。令和4年度の管内の新規就農者数（45歳未満）は3名（野菜2名、花き1名）であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（45歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 （計画）
人 数	11	13	8	3	5

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
里親登録者数	34	32	29	26	25
里親研修者数	6	6	3	4	4